



開倫ユネスコ協会  
*NewsLetter*

第57号

足利市堀込町145 Tel 0284-72-5915  
発行者 林 明夫 2010年1月1日

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜

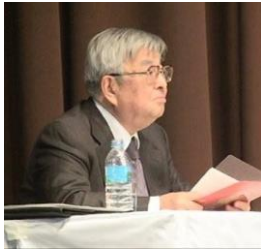


2009年11月7日～8日、日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜が開催されました。メインテーマは『共に生きることを学ぶ』で、世界寺子屋運動20周年記念の大会でもありました。

主催者あいさつ、来賓祝辞などの開会セレモニーに続き、ユネスコ運動推進員認定式、青年企画「模擬国際会議」が行われました。この模擬国際会議に参加した方は、世界各国の青年10名で、ユネスコの提唱する「21世紀の教育」に基づき、「教育」をテーマにディスカッションを行いました。

休憩をはさんで、「多文化共生」というテーマでのシンポジウムが行われました。パネリストとして、サイ・イエンガン氏（オペラ歌手）、黛まどか氏（俳人）、リリアン・テルミ・ハタノ氏（甲南女子大学准教授）の3名、コーディネーターとして南砂氏（読売新聞編集委員）、以上の4名で活発な意見交換が行われました。





2日目、午前9時より、文化人類学者 青木保氏（前文化庁長官）による基調講演が行われました。「混成文化と多文化社会」をテーマにして、日本文化と欧米文化の比較、日本文化の特長など詳細に語られました。

その後、ユネスコ世界寺子屋運動20周年記念シンポジウム「寺子屋の学びと人生」が行われました。パネリストとして、久保純子氏（ユネスコ世界寺子屋運動まなびゲーター）、大島賢三氏（国際協力機構副理事長）、尾花珠樹氏（鎌倉ユネスコ協会理事）の3名、コーディネーターは千葉泉弘氏（日本ユネスコ協会連盟理事）で、たっぷり2時間近く世界寺子屋運動に関するいろいろな情報提供、意見交換が行われました。このシンポジウムのなかで、尾花氏から次のような報告がありました。1987年マイケル・ジャクソン氏が来日した際、ユネスコに募金をしたいという連絡があったそうです。関係者はびっくりで、この時の募金とジャクソン氏の想いが元となって識字教育事業への支援を検討、今の世界寺子屋運動につながっています。数あるNGO・ボランティア団体の中から「なぜ、ユネスコを選んだのか？」との問いに対してジャクソン氏は、「ユネスコは持てる者が貧しい者に援助（gift やpresent）するのではなく、Co-Action（対等のパートナーとして共に学び、共に生きる喜びを分かち合う）の活動をしているからです」と答えたそうです。この頃の名前は『世界寺子屋運動』ではなく『コー・アクション活動』という名称だったようです。

最後に来年の開催地である奈良県のユネスコ連絡協議会の皆様によるアピールがなされ2日間の全国大会が終了いたしました。





## 両毛地区ユネスコ懇話会



館林ユネスコ協会 吉田和美会長



会場の様子



足利ユネスコ協会 間宵勉会長

2009年10月25日(日)、館林市にある『向井千秋記念子ども科学館』において、第14回両毛地区ユネスコ懇話会が行われました。この会は、両毛地区でユネスコ運動に取り組む7つのユネスコ協会の会員が年に一度集い、情報交換をし合い、親睦を図り合い、学び合おうということで開催されています。今年の主管ユネスコ協会は館林ユネスコ協会でした。参加団体は、足利ユネスコ協会、太田ユネスコ協会、佐野ユネスコ協会、桐生ユネスコ協会、館林ユネスコ協会、大泉ユネスコ協会、開倫ユネスコ協会の7団体です。午前10時に開会し11時までの約1時間、それぞれのユネスコ協会が今年の活動内容を発表し合いました。「民間ユネスコ運動の日」(7月19日)に記念講演会を実施したユネスコ協会、国際理解バスを企画し子どもたちと筑波学園都市に行ったユネスコ協会、世界寺子屋運動推進のため「書き損じはがき」を集めるキャンペーンを実施するユネスコ協会などさまざまでした。作家の司馬遼太郎が戦争中に駐屯したという佐野市、そこにある佐野ユネスコ協会では、司馬遼太郎文学記念碑建立記念式を行ったとのことでした。



関東ブロック・ユネスコ活動研究会

堀江英夫実行委員長



大泉ユネスコ協会



太田ユネスコ協会



佐野ユネスコ協会



桐生ユネスコ協会



開倫ユネスコ協会



また、「関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 栃木」で実行委員長をされた堀江英夫氏が御礼と御報告を述べました。最終参加人数は 275 名だったそうです。研究会、交歓交流会などは大いに盛り上がり、参加者からのアンケートに寄せられた声には、例年になくすばらしい研究会でした、とても有意義な時間でした、とのことでした。



発表者、質問者の様子

11時から約1時間、田山花袋記念文学館および館林市第二資料館を見学しました。

田山花袋記念文学館では、学芸員の御案内で館内をゆっくりと見学させていただきました。田山花袋は、「蒲団」「田舎教師」などの作品で知られる作家で、今年がその代表作「田舎教師」の発表から100周年を迎えるため。これを記念して、特別展「花袋 THE WORLD」を開催していました。田山花袋の生まれは、栃木県邑楽郡館林町（現在の群馬県館林市）で、尾崎紅葉のもとで修行をし、国木田独歩、柳田国男、島崎藤村などと親交があったようです。丸い眼鏡がトレードマークの田山花袋は、漢詩や和歌もたくさん残っていて、紀行文作家としての評価も高かったようです。代表作の「蒲団」や「田舎教師」などは日本自然主義文学として高い評価を受けています。

館林市第二資料館は、東に城沼を望み、旧館林城本丸跡を南に接するところにあります。この資料館は、館林にのこされた歴史的建造物、構築物等を敷地内に移築し、「歴史の森」として周辺の環境と合わせて整備したものだそうです。ボランティアガイドさんが、わかりやすくていねいにご説明してくださいました。



田山花袋記念文学館



館林市第二資料館